



市民レベルの国際交流活動により、相互理解と友好親善の促進を図ることを目的として設立された鶴ヶ島市国際交流協会。令和3年11月8日(月)に鶴ヶ島市国際交流協会の皆様にインタビューを行いました。



鶴ヶ島市国際交流協会は、通訳・翻訳ボランティア派遣事業やミャンマーへ市民から寄附された文具を贈る事業のほか、日本語教室、ホームステイの受入れ、ニュースレターの発行などの活動をしています。

<インタビューに参加された鶴ヶ島市国際交流協会の方々>  
横山明美会長、長峰志乃副会長、長峰章日本語部会長、平沢小百合ホームステイ部会長 (順不同)

●交流活動について

日本には約289万人の外国人が住んでおり、その中の約27万人が日本語を学んでいます。コロナ禍以前の日本語講座には、ベトナムやインドネシアなどからの技能実習生が多かったのですが、最近は、数年来の在住者も来ています。

ホームステイの受入れをしているホームステイ部会では、特別なことはしません。家族のように、身近な生活を一緒に体験してもらっています。

昨年10月に南中学校の国際理解に関する授業を担当しました。今後留学生と地域の学校をつないでいきたいと思っています。

●活動における課題

2020年はコロナ禍でしたが、日本語講座を27回実施できました。2021年の8月及び9月は緊急事態宣言により対面での開催ができませんでしたが、10月から再開しています。

今後は、今までの活動をより一層発展させていきたいと考えています。市議会からも国際交流協会の活動を市民に伝えていただくなど、協力していただきたいです。

現在、お子さん連れの学習者が増えています。託児ボランティア

アイデアがいろいろあったら、ありがたいと思っています。



●議会に興味を持ってもらうには

議員の皆さんは、課題への提案や人と人をつなぐなど、できることがたくさんあると思います。日常生活の中で議員活動の話題が出たり、議員の顔が浮かんだりすると投票に行きたくなると思うし、議会が身近なものになるのではないのでしょうか。

●こうなったらいいな

鶴ヶ島市は近隣市との連携を取りやすいのが魅力なので、つながりを大事にすれば、人は元気になると思います。

実は、学習者が日常生活の中で日本語を話す機会はあまりありません。地域の皆さんが気軽に話しかけてくれるようになりたいと思います。

市議会は市民の声を直接聞きに出かけます！

編集  
後記

2月は春への息吹を感じつつ新しい年への希望が湧いてくる季節で、その代表的な花は「梅の花」です。

花言葉は、「高潔」「忠実」「忍耐」です。

議員は常に「高潔」で、責務として住民要望を「忠実」に行政につなぎ、そして「忍耐」をもってそれらを続けることが重要であるとインタビューで感じました。

今回のインタビューは、鶴ヶ島市国際交流協会の御協力のもと行われました。

国際交流は、日常の中でも心を開いていればできます。異文化に戸惑っている外国人に「何かお困りですか」の声掛けと手助けを。(杉)

(広報広聴委員)

- 委員長 大野 洋子
- 副委員長 内野 嘉広
- 委員 松尾 孝彦
- 委員 小林 ひとみ
- 委員 太田 忠芳
- 委員 石塚 節子
- 委員 持田 靖明
- 委員 杉田 恭之